消防団だより

第　10　号
発　行
富士市消防団
富士市永田町１丁目100番地
電話（0545）51−0123
内線（3333）
FAX（0545）53−4633

“自分たちの街は自分たちで守る”

静岡県・富士市総合防災訓練

九月一日

今年度の防災訓練は、国、県、市防災関係機関、自主防災会、防災ボランティアなどが一体となった大規模な合同訓練を、富士海岸（五貫島地先）で行いました。

訓練は、東海地震発生を想定。三千人の参観者が堤防で見守る中、約四千四百人の参加者が「自らの命は、自ら守る」、「自らの地域は、みんなで守る」を合い言葉に、本番さながらの訓練を行いました。

防災訓練

第二十六分団　部長　加藤達也

九月一日防災訓練が行われました。今回の総合防災訓練は富士市が会場となり、大掛かりな訓練が行われました。自分が緑地公園にいき、最初に感じたことは自衛隊、警察、そして消防団などが、すぐに目にはいり、どの様な活動をするのか興味一杯になりました。訓練を真近でみると、各個人、部隊がとても規律のとれた動きと、全員参加者が真剣に取り組んでいる姿を見て、私も一人の消防団員として住民の皆様の期待に答えられるよう志したいと思います。

普段見ることの出来ない、車両、ヘリコプター、ホバークラフトなど見せてもらい感激しました。

火災訓練に参加出来た小中学生はその経験が必ずプラスになるだろうと思います。自分の住んでいる近くで、こうした総合防災訓練に参加できたことを幸せと感じ、もし本当に地震災害が起きてしまったとき、少しでもこの経験を生かして協力できる自分で在りたいと思います。

ヘリによる高所救出救助訓練

富士市総合防災訓練

第十七分団　団員　大久保邦雄

平成十一年九月一日駿河湾を震源とする、東海沖地震が発生「マグニチュード8」という設定で、富士市三四軒屋で訓練することになった。

当日は、消防隊、消防団隊、警察隊、自衛隊、水防団、自主防災会、など多くの人員が参加し、空からは自衛隊のヘリコプターの爆音と砂煙の舞う中で、我々消防団隊は危険物屋外タンク配管に亀裂が生じ、防油堤外に重油が流れ出し火災が発生、延焼拡大した危険物火災に対して、消防隊、応援消防隊、事業所自衛消防隊による泡放射、消防団による中継送水及びウオーターカーテン設定の延焼防止訓練を行いました。

当日海岸からの強風で、団員がホース一本と水幕ホースを二本延長したが、強風に流されて高さが低く、水幕が充分でなかったように思われた。消防団は訓練に訓練を重ねて、その知識を得ると共に、東海沖地震が来なければと思う。

防災訓練会場（富士海岸）

危険物火災による消火訓練

訓練礼式査閲大会に参加して

第十分団　団員　長橋　良知

平成十一年二月に分団員を拝命し新入団員の心得として訓練礼式査閲大会の訓練に参加させて頂きました。題に「大会に参加して」としましたが、三月から七月の富士支部大会に向けて、規律、礼式を体に染み込ませる練習が印象的でした。

訓練礼式では、長身であったために前列一番となり、比較的目立つ位置となりましたが、訓練、大会に渡り緊張感を持ってやることが出来たと思います。訓練礼式は、右翼、左翼分隊長にならって、行動していく訳ですが、なかで前列一番が独自の動きをする場合があります。その動きがうまくできず、指導員の方々に指摘を受けたことも多くありましたが、理屈で解っていても、体がうまく動かず、歯痒い思いを何度かしました。これらの訓練の中で色々な方々に迷惑をかけてきましたが、一般社会では味わうことのできない、体験をさせて頂いたことは大変良かったと思っています。

消防団活動は団体行動での規律礼節を重んじ、社会に貢献するのはこれからですが、今回の訓練を通じ消防団員としての規律礼節を体得とまではいきませんけれど、学んだことは少なくないと思います。

今回は、第三方面隊として参加して他の分団とも交流ができて他の分団の方々の情熱に感心させられたこともありました。通常他の分団と接することはありませんが、火災の際、他の分団と協力していく場合も、想定されますので、訓練の中で他の分団の方々と接することは大切だと感じました。

大会、訓練の為時間を裂いていただいた指導員の方々をはじめ多くの方々に感謝し、訓練大会で学んだことを大切にし、これからの消防活動に生かしていきたいと思います。

平成十一年度富士市消防団訓練大会優勝チームは次の通り。
訓練礼式の部■第三方面隊
小型ポンプ操法の部■第四方面隊
ポンプ車操法の部■第二方面隊

富士支部大会

第十一分団　班長　佐藤　孝

「別れ」指揮者の号令で無事終了、満足感と緊張から解き放され、心地よい汗が背中を流れる。本番に強い第三方面隊、結果発表、自分たちが呼ばれず、一瞬の静まり〝なぜなんだろう〟今までの訓練の日々が思い出されます。新入団員が多く、初めはどうなることかと、他人事のように見ていました。しかし、今回の選手ほど初めから一つのことに集中した姿は、記憶にありませんでした。

若い人達に引っ張られ練習時間に遅れがちではありましたが、選手、予備員に迷惑を掛けられないという気持ちでついていけました。訓練が終わって詰所に帰ってからも、若い団員から色々な質問が出て、基本を大事にしながら、何回かの大会に出ることによって、体に覚えさせ指導員の言われた事を忘れること無く次に生かすことと話したものです。

訓練に行くたびに、指導員の方々は早くからきて、熱心に指導してくれる姿をみて、訓練が終わるたび感謝の気持ちで一杯でした。最後に指導員の方々、分団の皆様の期待に応えられず残念ではありましたが、若い団員にはバネとして、消防団活動に生かして頑張ってもらいたいものです。第三方面隊の選手の皆様本当にご苦労さまでした。

訓練大会について

第八分団　班長　菊池奈津男

私が班長になって、初めての訓練大会です。八分団は大型ポンプ操法と規律の出場で選手たちも気合いを入れて練習に励みました。特に今回からポンプ操法では水出し操法の為、選手にけがの無いよう、気の抜けない毎日でした。

今回私は選手ではありませんが、手伝い応援に出て選手が一生懸命に訓練している姿を見ると、忘れかけていた活力が涌いてきました。

訓練期間中のけがもなく大会を迎えました。朝早く集合、訓練して会場に向かいました。開会式が始まり出番が近付くにつれ、選手の緊張しているのがわかり、私は選手達の緊張をほぐしてやろうと思い、おもしろい事をしゃべったり、勇気付けたりしました。そんな事をしているうちに本番です。私は思わず「がんばれ」と叫んでしまいました。中頃までミスも無く完璧です。選手の頑張っている姿に、私は肩に力がはいり全身に鳥肌がたっていました。無事に終り選手が戻ってきました。選手の清々しい顔をみて、私も思わずにっこりしていました。やり遂げたあとの気持ちのいいこと、選手でない私がこんなに気持ちいいんですから、選手たちはもっと気持ちよかったんではと思いました。優勝はできませんでしたが選手をはじめ八分団全員満足のいく訓練大会であったと思います。

各自仕事をもっている中、大変だったと思いますが、消防団活動の中で得るものはたくさんあるので、これからも頑張りたいと思います。

訓練大会について

第十五分団　団員　寺尾　貢

今大会が三度目の参加となる私は、ポンプ操法の一番員として出場した。過去小型ポンプ、ポンプ車とそれぞれ一度ずつ出場したが、練習期間中から、とにかく収納が大変辛かったという印象が強く残っている。またタイムとの戦いであり、正直いってなぜ収めの時間まで、関係あるのか、疑問に思っていたが、消防団員としての節度ある動きと敏速な対応が求められている競技大会と、自分なりに理解し訓練に臨んでいたのだが、水を出さないこともあり、今一つ納得のいかないものだった。しかし、今年度からの大会では水出しということで、自分の中での操法の在り方に近付いた大会であった。とはいえ水を出せば出すで、自主訓練も大変であり、水と訓練場所の確保等、今までよりも訓練の規制を強いられるものとなった。サラリーマンの団員が増えている中で、それぞれの時間の都合をつけて訓練するのは大変なことだが、(指導員の方はもっと大変だが)結果はともかく、要員が二転三転した中で良くできた操法だったと思う。水出しと言う事もあり自分なりに納得のいく大会となった。

富士支部査閲大会（富士市田島）
優勝チームは次の通り。
訓練礼式の部■芝川町消防団
小型ポンプ操法の部■富士市消防団
ポンプ車操法の部■富士市消防団

小型ポンプ操法で

第十四分団　団員　鈴木　保守

詰所の壁に、先輩たちの操法での栄光の写真が飾ってある。自分もそこに並びたかった。

十月から始まった練習、次々に起る難題を仲間は一つ一つ教えてくれ、年が変わる頃には、ひと通り流せるようになっていた。しかし、これまでの空操法から水出し操法に替わり、新しい小型ポンプを使い、それに伴い動作、節度、ポンプの取り扱い方など、様々な不安があった。

公設市場での合同練習、おそるおそる触れていたポンプも指導員の方々を始め先輩・チームメイトのアドバイスにより形になり、それに伴い分団の結束力が上がっていた。大会当日天気は上々、一週間前から朝練の疲れの中、変に緊張も無くその時を待つ、小型ポンプ操法の部第一番目、少しの緊張と誇りを胸に精一杯の演技をし、第四方面隊は優勝できた。

表彰の時、今までやってきた練習や共に苦労した方面隊長、分団長、団員、昔のことを思い出しうれし泣きしてしまった。夏の訓練、タイムアップにいき詰まりミスの連続、富士市の代表としてのプレッシャーに焦っていた、支部大会は熾烈な戦いの中、勝つ事ができた。そして目標にしていた県大会、胸をはって歩いた入場行進、雨の中演じた操法、結果はついて来なかったがやり終えたという満足感と負けた悔しさが残った。

自分にこんな大切な体験をさせてくれた、消防団にやりがいを持って活動していきたいです。

その年の夏、詰所の壁に、嬉しそうな自分達の写真が飾られた。

小型ポンプ操法の部県大会（十四分団）

初めての県大会

第七分団　家族　鈴木　りさ

我家には、三歳半の息子がいます。名前は、一輝と書いてイッキと読みます。何か一つでもいい一等に輝ける程努力するような人に成って欲しいという想いで名付けられました。お父さんは消防団員で、過去二回ポンプ車操法の要員でした。

今年の市の大会、支部大会に優勝、初めて県大会へ出場することになりました。毎年の事ですが大会が近づけば、訓練をしなければいけない、優勝する為にはもっと沢山訓練をしたい、必然的に家を空ける事が多くなる。一輝の口癖は「お父さん消防に行かないで」、「お父さん消防ばっかり」、一輝も私も寂しいなと感じた日が続きました。

それでも、大会当日は家族総出で応援に向かいます。じいじが作った応援看板を持ち、ばあばが握ったおにぎりを持ち、そして私がカメラを持ってまるでピクニックにでも行くかの様にして楽しんでいます。

優勝旗を持ったお父さんは、得意な顔をして一番に一輝の元にやって来ると、片手で優勝旗を持ち、片手で一輝を抱き上げました。

八月二十一日小雨の降る中、草薙運動場で県大会が行われました。

私達はいつものように手作りの看板とおにぎりを持って応援に行きました。ポツポツと雨足が強くなってきた頃、お父さん達、富士市消防団の順番です。いつもの様に緊張した面持ちで演技が始まり、私もいつもの様にカメラを構え、ホースを抱えて走ってくる姿をレンズ越しにみつめていました。終わる頃には雨はどしゃ降りになりました。お父さんは雨の中泣き崩れました。一輝を抱き締め子供の様に泣きじゃくりました。

初めての県大会、一輝の小さな手には優勝旗では無くまだ青いどんぐりを残してお父さんの初めての県大会は終わりました。優勝旗を抱える父親の姿、一生懸命頑張っている父親の姿、悔し涙を流す父親の姿、一輝の目にはどのように写ったのでしょうか。一等にならなくてもひとつの事に集中して一生懸命頑張った、お父さんの姿はとても立派で輝いて見えました。ご苦労さまでした。一輝はまだよく解っていないでしょう。でも「お父さん、カックイイ」と思っていることは確かです。

今のお父さんにとって一番輝けるものが消防だったんですね。

そんなお父さんの姿を見る事ができた私達はとても幸せだと感じています。そしてこの機会を与えここまで指導してくれた指導員の方々、七分団の皆様に心から感謝の気持ちで一杯です。いつか一輝も自分が輝けるものを見つける時が来るでしょう。サッカーかな、野球かな、それともお父さんと同じ消防かな（ギクッ）。その時は七分団の皆様方お世話になります。

富士市の大会・富士支部の大会を勝ち抜いた七分団と十四分団が静岡県大会へ出場しました。

県大会富士支部代表小型ポンプ（富士市消防団）ポンプ車（富士市消防団）訓練礼式（芝川町消防団）

ポンプ車操法の部県大会（七分団）

県大会（入場行進）＝草薙運動場

団本部訓練指導員
訓練礼式
滝　下　礼　而

団本部訓練指導員
訓練礼式
高　橋　国　男

訓練礼式

団本部指導員　部長
高橋　国男

今年の県大会を視察応援に行った人達には、規律の色々な号令、行動が有り、今までと違う自由演技がどれだけ素晴らしいものか、奥深いものかが伺えたと思います。

これからも部隊全体の、一人一人が責任を果たし、行動が完璧でなければ団体行動とは言えません。

一人だけが良くても悪くてもバランスが取れず、観客から「あぁ」の声があがる。

反復練習によって、号令に対して全員が一体となる動きを取らなければ結果は出てこない。

この礼式大会に、駿東、田方、加茂支部は不参加でした。富士支部は、東部唯一の部隊です。この基本動作に、参加しない支部の批判も県から出ています。

団本部訓練指導員
小型ポンプ
小　林　　哲

団本部訓練指導員
小型ポンプ
後　藤　正　明

規律もあって敏速かつ的確な団体行動が出来なければ、火事場などの色々な行動が速やかに行えないと思います。出初式にしても、ここに消防団有りと全員が認識し、礼式を重んずれば、立派な部隊行動となるでしょう。

県大会で終わる訓練ですが、この基本動作を身に付け、いかなる時でも対処出来るようになりたいものです。私は訓練礼式を愛し、これからも訓練を重ねていきます。

小型ポンプ操法訓練について

小型ポンプ指導員
第十六分団　部長　望月　貞男

消防団員は、地域防災の担い手として、消防活動に従事する責務を負っています。消防活動を行うには、まず炎に敢然と立ち向かう旺盛な消防精神と、火勢を制圧する技術、火災現場にあって激務に耐える体力、安全、自信等が要求されます。消防ポンプ操法は、この様な消防精神、体力、技術、安全、自信を養うものであります。今年度からより実践的な水出し操法に変更になり、総て手探りの状態で訓練に入りましたが、無事訓練大会を成功することが出来ました。しかし問題点も各箇所に有りました。これらを反省し改善を推進して行かなければなりません。

指導方法に関して、研修会、勉強会を通じ高度な指導技術を研鑽し頑張ります。

団本部訓練指導員
ポンプ車
中　村　健　司

団本部訓練指導員
ポンプ車
矢　郷　　章

県消防団査閲大会までを振り返って

ポンプ車訓練指導員
第十六分団　班長　佐野　博章

静岡県消防団操法要綱が、一年前より空操法から、水出し操法に変りました。新操法に向けて団本部は、ハード面において必要器材の研究充実に、指導員は、ソフト面において指導法の習得に、実技学習会が繰り返し行われました。方面隊や各分団の選手の皆さんも当初は不安がかなり在ったと思います。その不安も訓練を重ねるごと解消し上達したと思います。私たち指導員も選手皆様の上達を確信しました。

各出場隊ポンプ車の規格は、同じであっても使用年数、ポンプメーカーとか分団の日常の保守点検の違いによって、ポンプの性質や癖が在るのがわかりました。八月二十一日、県査閲大会に富士支部を代表して、ポンプ車操法の部に、第七分団が、出場しました。当日は不安定な天候で、第七分団が出場の時は、雨が強くなり最悪のコンディションになってしまいました。そんな状況の中でも選手たちは練習の成果を十二分に出してくれましたが、番員審査のほか、操法の安全性、正確性等を含む総合審査も有り、優勝には至らなかった、本当に残念でなりません。

この大会において実感したことは番員の脚力も重要ですが、ホースの搬送等の基本を忠実、安全かつ的確に行いポンプの癖や能力に精通することが求められます。私たち指導員は更に日頃の研究、研鑽を重ね、より良い指導をしていきたいと思います。次回出場予定の方面隊、分団にあっては練習を積み重ねていただきたいと思います。富士市消防団の全国大会出場を目指して。

指導員になって

訓練礼式指導員
第二十一分団　班長　岡崎　八十

今年方面隊の指導員の交替により規律指導員にと言われ、突然な事なので「どうしようか」と思いました。しかし指名を受けた以上頑張ってやるしかないと決意しました。

今年から新しい訓練礼式に変わり、どのように指導して行けば良いのか先輩指導員に色々と指導を受け覚える事ができました。訓練が始まり選手に指導をしていくにつれ、良いところ悪いところ、又選手一人一人が一つになるようには、どの様に教えたら良いのか大変勉強になりました。これからは先輩指導員の動き、教え方を見ながら、早く先輩方に追い付くよう、頑張って行きたいと思います。

新入団員教育

第二十分団　団員
影山　裕芳

敬礼で始まり敬礼で終わる。これが新入団員教育を終わった後、最初に感じた事でした。日頃敬礼を交わす職務と言えば自衛官、警察官程度しか思い当たらないのですが。今回の事で消防団員と言う職務もしっかりと頭の中にインプットされました。開講式から続く講義で消防団員に関すること、富士市消防団の組織や活動に関する事を学び、今まで自分が「消防団」というものに対して無知だったかを思い知らされ、同時に消防団員としての責任の重さも痛感しました。又、各個部隊訓練及び各種操法では、そのほとんどが初めての経験であり、緊張の連続でした。

以前から何か人の役に立つことがしたいという思いは在りましたが、新入団員教育を受けた消防団員なら必ず人の役に立てると確信しました。今後は経験をつみ一人前の消防団員になる様努力をしたいと思います。

分団紹介

第一分団　分団長　渡辺　俊一

第一分団は吉原商店街を中心に、吉原小学校区、二十四町内を受け持ち現在、団員数三十余名、平均年齢三十一才、自営業、サラリーマン半々で構成されています。

毎月五日と二十日を、定例の訓練日と定め、ポンプ車と小型ポンプによる自然水利からの放水訓練とチェンソーなどの機械器具の点検に汗を流しています。又団員奥様からの提案により夜中の、火災出動の時など、詰所に戻ると暖かい味噌汁やおにぎりを用意してくれています。

また毎月第一土曜日には団員の気が付かない所の清掃もしてくれています。そんなお礼を込めて、訓練大会、ソフトボール大会終了後に家族慰安会を詰所に於いてバーベキュー、子供達にはゲーム、すいか割りなどをして楽しんでいます。

伝統ある第一分団の諸先輩や地域の皆様のご理解ご協力を頂きながら信頼され愛される消防団を目指して頑張っていきたいと思います。

富士市消防団第十二分団

第十二分団　部長　勝亦友由基

平成十二年一月九日富士市消防出初式が、千名を超える人員と五十台以上の車両の、参加によって盛大に開催され、わが十二分団からも、人員三十名車輌一台にて参加、市民を守る決意を新たにしたところではあるが、全団員の参加ができず残念な気もする。さて広大な富士山の南麓に位置する、大淵地区を守る第十二分団の歴史を紐解いてみると、大正十一年（一九二二年）後藤村長、村岡駐在巡査、村の有力者、小山氏等の尽力により、公設消防組が組織される。昭和初期には公設消防組員は大淵村で二〇〇名を越え、この人員は第十二分団として縮小スタートするまで続き、今は引退した父が所属していた頃の、写真を見ると凄い人員であり、頼もしい限りである。昭和十二年に支那事変が勃発すると、各市町村に防護団が組織され、消防組と併存し、事務の重複、指揮系統の交錯を生じたため、昭和十四年に警防団として一つになる。戦争が終結し、昭和二十二年に消防団令が公布され、消防団となるが、警察の管轄下にあり、昭和二十三年消防法が施行され現在の体制となる。昭和三十年四月一日大淵村と吉原市が合併し、第十二分団が設置された。しかし縮小スタートとなり、色々な軋轢があったようだ。現在は中野一丁目、二丁目、落合を中心に分団員を確保するも欠員状態が続き、各町内会と連動し団員確保に努めています。

近年天災、人災ともに突発的に発生する傾向にあり、広大なエリアをカバーする、我々十二分団の使命、活動も益々重要となり、大淵分署・町内自衛消防隊・富士本林野消防隊・各町内会等との連携を密にして、スムーズ、スピーディーに活動すべく分団長を中心に各団員、日頃より使命感に燃え、消防活動に精励する所存であります。

分団紹介

第九分団　部長　宮下　智久

わが九分団は、富士市の東側に位置し須津浮島地区を管轄しております。現在消防車両二台、団員数四十五名の大所帯です。新入団員が毎年一、二名入団しており、平成十一年に五名の入団があり、益々盛り上がっています。九分団は、古くは分団独自の訓練礼式県大会出場、大型ポンプ操法、小型ポンプ操法の市大会同時優勝。小型ポンプ操法の支部大会優勝。方面隊での訓練礼式県大会出場二回。ソフトボール大会優勝三回等、輝かしい実績があり、平成十一年度の大会訓練も、小型ポンプは二月より、訓練礼式は方面隊で四月より、週二、三回の練習があり特に小型ポンプ操法では水出し操法という、初めての経験で、要員はもとより分団長以下役員はもちろん、団員皆様にも多数の協力をしていただきました。練習後の一杯の席で色々な話題が出て時間のたつのを忘れるくらい盛り上がった事がしばしば在りました。九分団では、毎月九日の日に定例会を行っており、これも出席者が多く盛り上がっております。

火災出動も平成十年二月以降一件だけですが、我が九分団には忘れられない事件があります。平成二年の連続放火事件です。七月から十一月に掛けて、須津地区で五件の放火火災があったのです。我々団員は各班に別れて、毎夜巡回したことを今でも覚えています。九分団では毎年一回家族慰安会を行っており、家族に感謝し、協力をお願いしております。

九分団では団結と思いやりを、モットーに先輩たちの築き上げた九分団を汚さぬように守っていきたいと思います。

分団紹介

第十九分団　団員　田杉　卓詩

私が平成九年四月に消防団に入団してから、早いもので三年目となりました。

まだまだ先輩方には、経験、知識とも遠く及びません稚拙ながら、私なりに我が第十九分団の紹介をさせていただきます。第十九分団は、富士市の西端、松岡地区を担当地域としています。西は富士川に接し、南に東海道本線、北に東名高速道路、東に身延線に囲まれた形となっています。全般に住宅地域が多いのですが、近年大型小売店や飲食店が次々に開店し、商工地域としても活況を呈しております。住宅についても以前は一戸建がほとんどでしたが、集合住宅が軒並みに増加してします。又、戸数自体も農地、工場跡地の宅地化で着実に増え、我が分団の存在が、ますます重要になってきていると自負し、身の引き締まる思いで日々活動しています。

分団活動として地域の特色あるものと言えば「雁がねまつり」の警備が筆頭にあげられると思います。

この祭は「投げたいまつ」、火の付いたたいまつに縄をつけ振り回して投げ、十メートル程の高さの木柱の先端に取り付けられた、藁の大きな的に点火する勇壮なイベントをメインにしています。「運動会の玉入れの籠の大きな物を想像して見て下さい。」この祭において我が分団は第二十分団と協力し、外れたたいまつの消火活動に警備を行っています。

今年度は分団長、副分団長が交代され、四名の新入団員を迎え、新体制で活動を始めました。点検日等の日常活動に於いても出席率が高く団員の結束の強いのが我が分団の誇りです。

団員募集

＊今、若い人の力を消防団は求めています。＊

消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。

団と地域交流について

第二十三分団　班長　長谷川文利

私達二十三分団は、地元の人達との交流のひとつとして地域の祭り等に参加しています。

五月に行われた、曽我寺祭りの武者行列は今年で七年目を迎え、我々団員も一回目から、毎年参加しています。今年も三名団員が武者姿に扮し源頼朝の鈴木市長を先頭に、歴史絵巻きさながらの勇壮な行列が行われました。ほかの団員も交通整理や、夜の花火警備等祭りに協力しています。久沢北区の夏祭りや、秋の八幡宮祭典では、ラーメン店を出し祭りに訪れる人達に喜ばれています。これからもこれらの行事を通して、地域の人達に親しまれ、消防団活動を理解してもらえる様、務めていきたいと思います。

第三分団

第三分団　団員　石川　哲也

僕の住む地域は、吉原の祇園祭が在り、青年団活動も大変活発です。分団に属しているその先輩の強い誘いがあり、青年団活動の延長のような気持ちで入団し、早五年の月日が経ちました。当初は、消火活動や消防の行事にも身が入らず、仕事が忙しいなどの理由で出ないことが多かったのですが、消火活動の回数を重ねるごとに、現場に一刻も早く駆け付け、少しでも早く消火させたいと言うなんとも言えない、体の中からわきでるものが強くなると共に、家庭を持ち、子供が生まれると、地域に対する愛着が、一層芽生え、その頃から活動に積極的に参加するようになりました。

最近では火災が起こると、友人から「広報で三分団出場と聞いたけど出場した、場所はどこだった」と、電話がかかってくるほどどっぷりつかっています。又、幅広い年齢層の団員には、消防以外に教わることは多く、家族ぐるみの付き合いも大変楽しいものとなっています。

火災は、そこに住む人々の仕事や生活の場を奪ってしまうだけでなく、思い出や、最悪命まで落してしまう恐ろしいものです。

それだけに、消火活動に従事する僕たちは、普段からポンプ車、小型ポンプ操法や備品の点検など、怠りなく行っておくことは、言うまでもありません。夜警にしても、警鐘を聞き、各家庭で、もう一度火の元をチェックしてくれること、これが大切な防火の第一歩だと思います。

一人一人ができることは限られていますが、皆が助け合い、協力し、行動を起こせば、それは無限大の力となります。消防団活動もその一つだと思います。僕一人の力は微力ですが、自分の住んでいる町内だけでなく、近隣の地域の人々の、生活を守る手助けをするという信念を胸に、努力し続けたいと思う、今日この頃です。

家族について

第四分団　班長　丸山　史徳

我が第四分団では、毎年団員とその家族の慰安旅行を実施してくれます。今年は開園したばかりの、横浜ズーラシア動物園へ行ってきました。土地感のわからないところへ行くのが苦手で、丸一日を掛けて遊びに出かけることが、数えるほどしかない私は、この機会を利用して妻と三人の子供とゆっくりと楽しんできました。

消防団活動は消火活動はもちろん、大会訓練、地域防災訓練など年間をとおして様々ありますが、その都度家庭の協力を感じます。火災広報が流れるとテレビの音量を小さくしてくれる子供達や、寝ているときに起こしてくれる妻。夜警に出かけるとき作業服を持ってきてくれたり、当たり前のような小さな協力が私にとっては大変嬉しく思います。

先輩には、消防に入って二十年、三十年、それ以上の方々がおられますが、その家族の方々も、同じ年月消防団活動をしているものと感じます。消火活動では、ケガなどしないよう、家族に心配を掛けずに地域防災に努めなければと思います。

家族について

第二十五分団　班長　石川　裕

夜、火災のサイレンが鳴り響く。とっさに作業服に着替える。女房はベランダに出て、広報を聞き入る。「二十五分団出場要請無いヨ」との時はほっとするが、出場要請の時は「気をつけてね」と女房とお袋の声に見送られ出場する。ごく普通の言葉であるが、気が引き締まる。

まだ記憶に新しい、阪神大震災がテレビに写し出された時は生地獄を見ているようで、家族で楽しい正月も過ごしたろうし、成人式も家族の皆で祝った。楽しい家族の余韻が残っていた、束の間の出来ごと。

もし自分の家族に、この様な不幸な災害に遭遇した時、何処まで対処できるのか。家族の安否を気づかいながらの出場。

時には夫婦喧嘩もあります。親子喧嘩もあります。原因はさもないこと仕事上のイライラとかを家族にぶつけてしまい、楽しいはずの家族の団らんに何日も気まずさが続く。こんな事は、どこの家庭にもあると思います。その都度思うのですが、家族の応援があって消防団活動が出来る事を感謝しています。家族の絆をもっと大切にしたいと思います。

分団活動と家族

第十三分団　家族　佐野　明子

日頃より消防団本部の皆様、分団長をはじめ分団の皆様には、お世話になっています。毎年の健康診断も受けさせていただいておりまして、有り難いことと思っています。

夫も四捨五入すると五十歳になり、少々体力の変化を感じます。そんな中で夫の両親にとっては、いつまでも子供であるので、出場の時は言葉による応援を受けています。親って有り難いことです。子供達は「十三分団出場だって、お父さん行ったかなあ……」と、それなりに心に止めているようです。明け方とか、夜半に出場することは、それなりに責務を思っての事でしょう。体には十分気を付けてもらいたいものです。

また、防災訓練のときにつくづく感じるのが、ホースから放水される、水の力です。気を入れていないと飛ばされそうに思えます。指などの骨折を心配しています。現場ではどんなかと思われるのです。

それにしても天災は忘れた頃にやってくる。地震、雷、火事、おやじ、恐ろしいのは二十一世紀になっても変わらないと思う。空気が澄んで乾燥しているときなど、火の元を用心しなくてはと家族で話しています。そして健康な日々がすごせるよう願っています。

消防団ソフトボール大会

第二十二分団　団員　杉山　友一

私は、消防のソフトボール大会は三回目の出場となります。

初回は、まだ入団したばかりで様子が分からず、消防団の年間行事として、ソフトボール大会があると聞き出場しました。

その時は、一回戦負けでした。とても悔しい思いを今でも覚えています。それから、二回目の出場の際は、前回が一回戦負けの為、一回戦突破を目標として挑みました。

この大会は、選手一同大変気合いが入っており、どうしたことか、一回戦、二回戦と勝ち進み、気が付くと疲れも忘れ決勝戦まで来ていました。最後の試合と、全員で力を結集し戦いました。結果はついてきました。「優勝」の二文字でした。

初めての優勝に全員感動しました。また、分団長、副分団長も予想外と、大変喜びその日の優勝祝賀会がとても楽しかった事を今でも鮮明に残っております。

私たち分団は、とても団結力があり、この様な時大きな力を発揮でき、とてもまとまりのある分団であるとつくづく感じました。昨年は雨の為中止となりました。雨のおかげで二年間も優勝旗が、我が分団に在りました。

今年優勝旗を返還しても、再度我が分団に返ってくることを願い、大会にのぞみました。

今年は天気も良く、絶好のスポーツ日和に恵まれ、前回の優勝チームと言う事もあり、他分団から大変注目されていました。初戦は二十一分団と試合を行うという事が抽選で決まりました。初戦は開会式直後の三試合目という事もあり緊張感を保つことが難しく、待つ時間だけでも疲労感を覚えるようでした。

いざ試合となって、なかなか試合展開が思うように進まず、気持ちは前向きでしたが気持ちと試合結果は空回り状態で、試合回数だけが過ぎていきました。そろそろ反撃だと再度気合いを入れ、守りにつこうとしたとき、無念にも試合終了時間となり初戦敗退となってしまいました。

他分団からは、決勝戦で対戦したかったと言われた時、とても悔しい思いをしました。

しかし、全員一丸となって取り組む姿は非常に良く、次回は初戦突破を目標にがんばっていきたいと思います。

「第二十五回富士市消防団ソフトボール大会」十月十七日
計二十七チームにより二ブロックごと、それぞれに優勝を争った

消防団ソフトボール大会を終えて

第六分団　班長　杉山　修一

日頃培われてきた団結力、つまり目的に向かって分団一丸となり取り組む姿勢というのは無意識のうちについついでてしまうものです。

その良い例が今回のソフトボール大会である。大会前には「早々に負けて早いうちに一杯やろう」などと打ち合わせしているにもかかわらず、いざゲームが始まると、綿密にいっていた話し合いなどどこかに飛んでいってしまい、スライディングキャッチは出るは、一塁には全力疾走、ホームランが出たものなら、プロ野球並みのお出迎え、消火活動の為の訓練がこのような場でも遺憾なく発揮され、どの様な場でも手を抜かず全力で取り組む消防団員。富士市民にしてみればなんとも頼もしい面々ではないでしょうか。このソフトボール大会に出て、ふと、こんな場面が遠い昔にあったような気がしたのは、私だけでしょうか。まだバックネット裏からの中継をやっていた頃の広島市民球場での、対巨人戦で巨人の選手がバッターボックスに立つと、アナウンサーの声の向こうに放送禁止用語と思われる、ヤジがガンガン飛び交っていた。あの光景であるのに気が付いた。さすが消防団員、試合にでていない団員でも、しっかりと援護射撃をしている。そのヤジの適切なこと。ここでも日頃の訓練がいかんなく発揮されている。とにかく富士市民の安全は、この消防団がある限り確保されていると言う事です。

主な結果は次の通り
①十六分団、二十分団
②十八分団、二十六分団
③五分団、六分団、八分団、十三分団

ラッパ隊十三年を経て

第二十四分団　班長　望月　毅

ラッパ隊に入隊、以前から楽器の一つぐらい弾いてみたいと思っていたものの、ドレミくらいなら解るが、何拍子とか何分音譜とか何しろ楽器の演奏をするなんて、小中学生時代に習って以来すっかり忘れていました。一緒に入隊してきた仲間たちの中にも、私みたいな人がいたのでホットしました。

今、音が何とか出ているようですが新しい曲を習う時は、今でも楽譜の内容がなかなか理解出来ず、演奏の練習を重ねていくうちに吹けるように成ってくるような感じで、進歩も無いまま、はや十三年も経ってしまいました。現在、結成当時の仲間は自分を含め三名しか残っておらず、隊員の顔ぶれもすっかり変わってしまいました。私も仕事の都合で二年ほどラッパ隊から離れていましたが知らぬ間に再入隊が決まっており、今に至っております。以前は月に一度の練習も、今では週に一度となり、たまに雑談で終わってしまうときもありますが、話しの内容の中には、これからのラッパ隊活動、各分団の運営方法、ラッパ隊に対する理解と協力の話し合いの場にもなっています。協力と言えば、皆さんの分団はいかがでしょうか。我が分団を例にあげると団員数が多いとはいえませんが、主な行事や訓練大会のメンバーにならないよう配慮していただいております。訓練大会の要員、ラッパ隊と掛け持ちで、練習日が重なってしまったり、大会の日は制服と作業服を二着持っていき、着替えなければならないので面倒でした。特に新入隊員のいる分団では皆と一緒に吹けるようになるまで苦労すると思いますので練習に集中出来る様協力をお願いします。

出初式より

十八年間ご苦労さま

第十八分団　団員　村瀬　幸信

私が入団するずっと以前の昭和五十六年四月、わが分団に最新機能のポンプ車が納入され、当初より数々の火災現場においてその能力を遺憾なく発揮してくれました。

以来十八年間休む事なく連日詰所で出番を待ち続け、消火活動の立役者として現在まで活躍して来ました。

しかし、寄る年波に逆らえず、近年故障が目立ちだした。丁度その頃消防本部より消防ポンプ車の更新話があり、平成十一年十二月二十二日には晴れて、新消防ポンプ車の納入式まで行われる運びと成りました。

式では、富士市長より激励と期待の言葉を頂き、富士市議会議長、富士市消防長、富士市消防団長・副団長・方面隊長の方々が感謝の言葉を述べ納入式は滞りなく終了しました。

式の終了後に、車輌とポンプのメーカーの方から説明を受け、その能力の高さに出席した団員一同、ただうなるだけでした。

この高機能車両を導入して下さった富士市に感謝すると共に、これを機に訓練等、今以上に精進して行く事を分団長以下団員全員が心に誓いました。

最後に旧車両から新車両に備品を乗せ換えている時、段々寂しくなりつくづく十八年間の勤めに感謝の気持ちが込み上げてきました。

「本当に今までご苦労様でした」

分団紹介

第十六分団　班長　佐野　博昭

富士市消防団第十六分団は、ＪＲ東海道線南側に位置し、富士駅から南へ〇・九km、東は東芝キャリアまでの〇・二km、西は富士川防波堤までの一・八kmと、東西に細長い九km²の富士駅南地区を担当しています。

富士駅南地区には平成十一年十月一日現在で、人口一〇、八八二人、世帯数で四、〇一六戸、が居住しており、人口密度は1km²に、約三、七五二人と市内で四番目に高い住宅密集地です。又ここは高層建てのマンション、アパートが多く集まっている地域でもあります。

第十六分団には、十二月一日現在、石川敏郎分団長以下、副分団長一名、部長三名、班長五名、団員十六名の総勢二十六名が所属しています。

年齢別で見ると、六十代二名、五十代五名、四十代十一名、三十代七名、二十代一名とご多分にもれず、高年齢化しています。分団の定例活動として、毎月第三日曜日午後三時から、各地区内の防火水槽を点検した後、ポンプ車、小型ポンプの機械器具の操作点検を、放水しながら実施しています。

石川分団長の今年度の方針として、「地域に、より解け込んだ消防団活動を目指して」を基本概念として、地域の各種行事に積極的に参加しました。六月二十七日に行われた、詰所東側にある、小規模授産所の「竹の子まつり」に初めて参加させてもらい「綿菓子」や「火の用心たまご」の模擬店を出店し、皆様に喜んでいただきました。永年殺風景だった、詰所のシャッターに富士第二小学校と富士南中学校の生徒に依頼して、生徒自らデザインした火災予防の絵を、夏休みに入った七月二十一日から一週間程で書き上げてもらい、道行く人の心を和ませてもらっています。

消防まつり

第五分団　家族　久能　菜摘

私は毎年、消防まつりをとても楽しみにしています。今年も一緒に自転車で行こうと約束していました。

このまつりのためお父さんたちは前の日から、ジャガバターのじゃがいもを洗ったり、もつの煮込みなどを作ったり、一生懸命したくをしています。毎年楽しく消防まつりができるのは各分団の人達のいろいろな努力のおかげだなあと思います。各分団のところでは消防団の人達が声をかけてくれるので消防まつりは火災に気をつけようとかだけではなく、人とのふれあいを大事にしているまつりだと思います。まつりでは、白いけむりの中を歩く体験コーナがあり、まっ白で前が火事になってしまったら、こんなになってしまうと思うと、火事は本当に怖いものだなあと思い、気をつけたいと思いました。いろいろなものを安く売っていたり、なげもちもある消防まつりは楽しいです。また来年も行こうと思っています。お店でだすものが同じでも、年ごと楽しみが増えています。

消防まつり

第二分団　班長　井出　利一

十一月十四日絶好の秋晴れとなり消防まつりの開会が宣言された。

防火、消火、災害時における避難などに対する、一般市民への啓蒙や実践、さらには消防団員相互のコミュニケーションなどを目的としているのだ。我が第二分団は恒例により、花屋さん、風船屋さんを開業しました。消防まつりに出動する団員たちは売り場のセッティングや値札つけと準備に余念がない。もともと本職を持っている集団であるから、各方面でその道に精通しているものがいるのが頼もしい。色々な花の名前を知っている人、その花の世話の仕方を知っている人、ゴム風船の扱いに慣れている人、お客さんの呼び込み引き付けることのうまい人など。

全員が一致協力して、我が二分団の店を盛り上げている。しかし、そこに来てくれるお客様に商品を渡したり、お釣を払ったりしたときに、チラリと顔を見るが、次期消防団員になってくれるような、好青年になかなか巡り会えなかった。

本部や、市の担当者も同じような労力を払っていると思うし、沢山の予算も使われていると思う、それまでして開催されるおまつりに、もう一つ次期団員の獲得を目的とした企画はないのだろうか。

我が二分団も団員の獲得に頭を痛めている、次期消防まつりには好青年の集まるような企画をして、入団申込用紙を各分団テントに置き、消防まつりで団の獲得が出来れば、又来年の消防まつりがもっとにぎやかに成るのではないかと思っているのは私だけでしょうか。